

令和5年度 学校経営方針



笑顔あふれる学校

つながりを大切にし、学校・保護者・地域、みんなでつくる

穏やかな空気の下で「笑顔あふれる武蔵野小学校」

令和5年度 学校経営方針

令和5年4月1日

昭島市立武蔵野小学校 校長 大河原 博

1 学校経営にあたって

全ては子供たちのために「楽しい学校づくり、学校経営」を目指します。

武蔵野小学校では、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図ります。そして、学校・家庭・地域と密接に連携し、ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指し、本年度も以下の「学校づくり」を目指していきます。

笑顔あふれる学校

つながりを大切にし、学校・保護者・地域、みんなでつくる穏やかな空気の下で「笑顔あふれる武蔵野小学校」

今年度、常に視野に入れておかなければならない事柄として、

- (1) 学校運営協議会制度を導入して、昭島市初の「コミュニティースクール」(武蔵野小、つつじが丘小、瑞雲中)の学校運営協議会をスタートさせます。
- (2) 令和6年度開催の50周年式典、関連行事等について地域・保護者の皆様と協力して準備を行っていきます。

子供たちが学んで楽しい、教員にとって教えて楽しい、そんな学校を目指します。笑顔あふれる学校で、全ての教育活動で子供同士、子供と教職員、子供に関わる全ての大人が、人権に配慮し、心を通わせることを重視した教育活動を展開していきます。また、組織的・計画的に公教育を展開するため、「チーム武蔵野」は「お互い様です、お世話様です、ありがとうございます。」の気持ちよい言葉かけや挨拶を大事にして職務を遂行します。

2 学校経営の基本的な考え方

日本国憲法、教育基本法をはじめ、関係法規及び東京都教育委員会並びに昭島市教育委員会の教育目標、昭島市教育振興基本計画等を踏まえるとともに、教育課程の基準である学習指導要領を基盤とした公教育を行います。

- (1) 児童一人一人を大切にし、学力向上・健全育成を図る活動を充実させる。
- (2) 教職員が共に学び、互いに高め合い、学校力の向上を図る。
(都の教員としての資質の向上に関する指標や教育課題への対応)
- (3) 家庭や地域との連携を図り、信頼関係を構築し、開かれた学校を目指す。
- (4) 公立学校として教育活動の条件整備を進める。
- (5) 現代の教育の在り方として、Society5.0 や SDG s に向けた取組や課題を認識しておく。

3 目指す学校像

(1) 充実した学校（児童にとって）

- ・児童一人一人がよさを発揮し、意欲的、創造的に活動する学校
- ・生涯にわたって学び続けるために必要な意欲や学び方など、生涯学習の基礎・基本を確実に身に付けられる、授業が充実した学校
- ・いじめ、意地悪、嫌がらせのない基本的人権が守られた安心できる学校

(2) 信頼できる学校（保護者にとって）

- ・教育活動は人権尊重を基盤としたものであり、その中で子供にとって授業が分かり、知徳体の基礎基本の定着ができる学校
- ・学校教育に関わる情報を共有し、不安を解消し安心して、子どもを預けられる学校（感染症対策、防災教育を含む）
- ・学校は子供にとって生活の場である。安全で清潔な環境である学校
- ・家庭や地域社会との相互理解・協力を図り、学校の役割をよりよく果たしてその信託に応える学校

(3) 働きがいのある学校（教職員にとって）

- ・教職員が教育活動の充実のために指導力を高め、一致協力して組織的に教育活動を展開できる学校
- ・温かい人間関係で、教職員が明るく生き生きと仕事ができる学校
- ・自分を磨き専門性を発揮できる学校
- ・互いに認め合い、支え合える連帯感のある学校
- ・働き方改革を推進し、持続可能な教育活動が保持できる学校

4 教育目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るとともに、学校・家庭・地域が密接に連携し、ふるさと昭島の自然や文化を愛し社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指すために、次の3点を教育目標とする。

○しっかり考える子（問題解決力）

よく見て、よく聞き、よく考える力を培い、思考力・判断力・表現力を身に付けた子供

○心やさしい子（人間関係形成力）

生命の尊さと人権尊重の精神を学び、感性あふれる豊かな心をもつ子供

○つよく元気な子（体力・活力）

健康、安全に心を配り、すすんで心と体を鍛えることができる子供

5 学校経営の基本方針

- (1) ありのままの児童を受け止め、一人一人の児童の可能性を信じ個性・特性を発揮できるようにするための方法を考え実践する。
 - ① 児童一人一人への注目と成長、発展への支援（特別支援教育の充実）
 - ② 児童自身による目標の設定とチャレンジの重視（キャリアアルバムの活用）
 - ③ 児童一人一人の経験を広げ、深める活動の重視
- (2) 教師は授業で勝負、「基礎・基本」を身に付ける授業実践を積み重ねていく。
 - ① 児童一人一人が「学んで楽しい」を実感し、教師も「児童の成長」を実感でき、児童の成長に喜びを感じることができる授業改善
 - ② 自ら課題を見つけ、自ら考え、判断する能力や態度の育成
 - ③ 基礎・基本的な内容を定着させる授業とそれを補完する取組、一部教科担任制
 - ④ 児童一人一人の学習状況に応じた指導の工夫、教材の共有化
 - ⑤ デジタル教科書や ICT 等を活用した一人一人の力を最大限に伸ばす効果的な学びの創造
- (3) 家庭・地域社会との関りを深め、相互理解や行動連携・協働を通して、児童を育てていく。学校は、その中心的役割を発揮する。
 - ① 学校の基本姿勢・教育活動を P R する情報発信の活性化
 - ② 家庭・地域の声（期待、要望、批判）の活用
 - ③ 地域に人材や教材を求め、地域の教育力を活用した教育の推進
- (4) 教職員一人一人が持ち味を発揮し、協働性の高い職場づくりを進める。
 - ① 児童一人一人の成長を促す魅力ある授業を実現するための校内研究
 - ② 肯定的な児童理解に立つ教職員の意識と実践力
 - ③ 「児童のための教育」で一致できる教職員の輪・チーム力
 - ④ 働き方改革を推進し教育計画を確実に実施する、合理性・効率性が高い文章組織
(タイムマネジメント、ハラスメントゼロ)

6 その他

- (1) 昨年度実施した授業力向上アドバイザー事業で実施した、教員一人一人の授業課題と自己点検による授業改善は、学校全体の授業力向上へとつなげていく。
- (2) 本校のレガシーとして、学校の特色である芝生化の活用で、維持管理から環境への意識を高め、その活用・交流から地域愛を育む。
- (3) 「つなぐ・そろえる・つらぬく」をキーワードとした、瑞雲中学校ブロックの特色を生かした教育活動を継続して展開していく。